

4. 中心市街地活性化対策の充実

①中心市街地の空洞化対策のためにも行政機関施設の集約化や中心市街地への移転などを推進されたい。

老朽化が進む行政機関施設（国・県・市）の集約（複合化）事業を市がリーダーシップを発揮して推進するとともに、推進にあたっては、官民連携により、まちなかの賑わい創出、地域の価値や住民満足度を高め、新たな投資やビジネスの機会につなげる仕組みづくりを積極的に推進されたい。

②空き店舗の有効活用を加速させるため、借り手のみならず、貸し手側へのインセンティブの充実について

空き店舗の有効活用は、借り手への創業支援などのインセンティブがあるものの、貸し手側へのインセンティブが少なく、貸し物件としてなかなか提供されないという状況にある。加えて、建築費が高騰している状況の中で、居抜き物件は創業・起業者にとって魅力的な場所であり、賑わい創出のため、貸し手側への積極的なインセンティブ策等お願いしたい。

5. 里沼めぐり循環バス運行の促進と関連観光の活用

点在する3つの沼を結ぶ移動手段は乏しく、日本遺産である里沼と周辺観光資源が活かしきれていない現状があり、旅行客の利便性を高めるため、館林駅を拠点とした二次交通網の整備が必要となっている。

里沼を中心とする観光用周遊型循環バスの運行については、当所内で特別委員会を設置し、推進を図ってまいりたいと考えておりますので、市当局の特段のご配慮をお願いしたい。

また、群馬県立館林美術館・茂林寺周辺・つつじが岡公園等、関連する沼を活用した誘客効果の高いキャンペーン実施についても検討を図られたい。

6. 県道山王赤生田線の整備について

北部第4工業団地、大島産業団地の整備が開始され、館林 IC へのアクセスが更に重要となってくる。このため、早期の事業の実施をお願いし、物流の円滑化に努められたい。

また、本路線は環状機能の一部を構成しており、同様の位置づけとなる国道122号（青柳広内線）バイパスの早期完成も実現されたい。

7. 地元企業への優先発注について

急激な物価高騰や最低賃金の引上げ、円安等の経済状況を踏まえ、地元中小企業の置かれる立場は大変厳しい局面が続いている。また、人材の確保や定着にも課題を抱える中、地元企業の経営の安定はもとより成長・支援を図るためにも、事業発注にあたっては、ローカルファーストの理念に基づき地元企業を優先的に入札等の実施を図られたい。

ペーパーレス化に向けた第一歩

令和6年度 第2回常議員会開催

10月16日（水）、館林商工会議所3階ホールにおいて、令和6年度第2回常議員会が開催され、20名が出席した。会議では顧問参与の委嘱や新入会員の承認などの議題が協議され、すべて原案通り可決された。

今回の会議から、会議資料を事前にメールで配布し、説明時はスクリーンでの投影を行うことで、会場での紙資料の配布を削減した。今後は総会やその他の会議でも順次ペーパーレス化を進めていく。



▲常議員会の様子